

平成27年度 「ぼちぼちの会研修会」を行いました。

平成28年3月4日(金) 19時から「平成27年度 ぼちぼちの会研修会」を若久公民館で実施しました。宗像市や席田校区からの参加も含めて24名が研修をしました。今回は「九州産業大学大学院附属臨床心理センター『ワンド』」の山川京子先生(臨床心理士)を講師にお招きして「ひきこもる子どもや若者への対応」「発達障がいの理解」などを研修しました。

講師の先生から、参加者同士のコミュニケーションを密にしていくための対話型・参加体験型研修も取り入れられ、フレンドリーな雰囲気が進められました。後半は参加者からの質疑を中心に具体的な対応の仕方なども研修することができ大変有意義な時間になりました。

- ① 相手がしてほしいことでも「ひとこと」あればうまくいく。慮ることは大切だが言葉にしないとうまく伝わらない。親だから間違わないということはない。悪いと思ったら引っ込める。浮き沈みのあることは悪いことではない。自己一致(思っていることと状態が一致すること)であるば落ち込んでもいい。
- ② 発達障がいだからと言って人の気持ちがわからないと言えども成長も発達もする。
- ③ 発達障がいは病気ではないので治らないが状況に慣れることはできる。
- ④ 小さい時にスクリーミングにかからないと療育の対応ができず2次障がいになることもある。生活訓練を家庭でも学校でも。
- ⑤ 親子でもコミュニケーションは違う。お互い思っていることをうまく伝える。「通訳」が必要な場合もある。
- ⑥ 質問がうまくなければ答えもうまく引き出せない。適切な質問がコミュニケーション力も伸びる子どもを育てる。
- ⑦ 居場所があればというものではない。段階的に満たされていくものがある。その子の健康な部分をしっかり守る。今できていることを維持する。「行かなくていい」ということを保証する(安全欲求を満たす)。



◎「ワンド」(福岡市ひきこもり地域支援センター)とは

集団や対人場面を苦手とする人が無理せず居られる場を提供するとともに、ニーズに応じて個別面接相談や、同行支援も行う。常勤スタッフの臨床心理士2名のほか大学院生がサポーターとして参加。親の会など家族・支援者へのサポート活動も実施。原則として15歳(中学卒業年齢)～30代まで。TEL092-673-5804

